

図1 経過に伴う保護者のニーズの変化

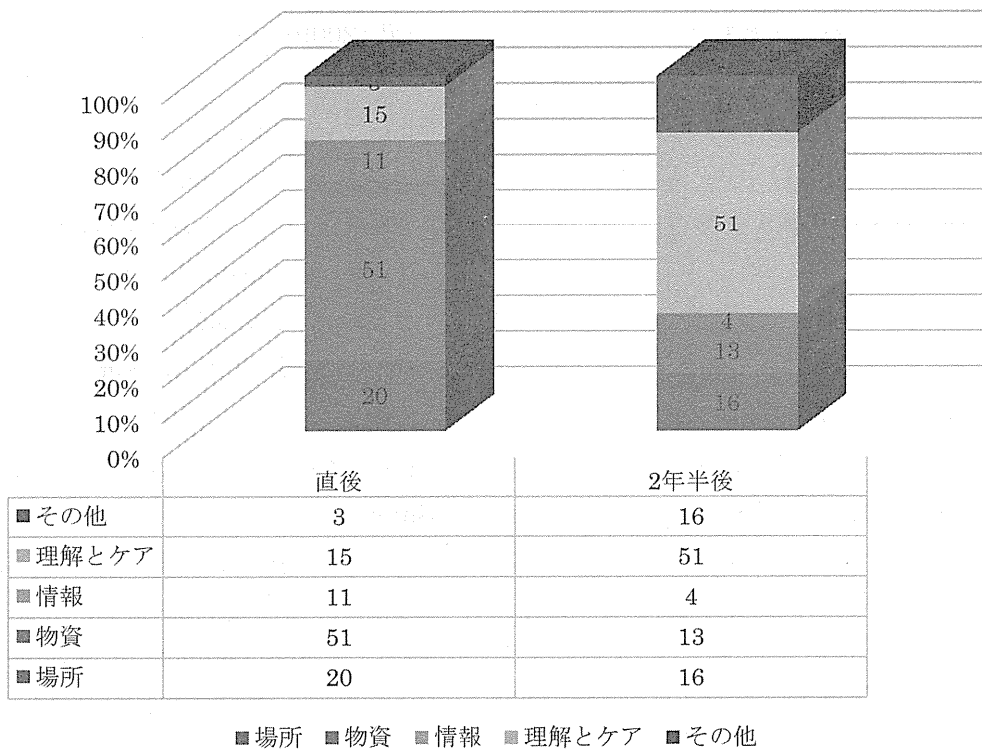


表1 災害直後に不足していたこと（保護者 80名）

大カテゴリー	コード数	%	小カテゴリー（）はコード数
場所	11	25.0	安心できる場所（5）、福祉避難所（2）、その他（4）
物資	28	63.6	食糧・水（14）、薬品・医療品（5）、衣類・防寒具（3）、おむつ・衛生品（2）、発電機・ガソリン（2）、車（2）
情報	6	13.6	正確な情報（3）、子どもに関する情報（2）、安否情報（1）
理解とケア	8	18.2	子どもを預かってくれる人（3）、子どもを理解してくれるボランティア（3）、専門家（2）
その他	2	4.5	携帯電話の復旧（1）、その他（1）
コード計	55		

%は自由記述に回答していた協力者数 44 名中の割合 複数回答があるため 100%以上となる

表2 災害直後に不足していたこと（支援者 87名）

大カテゴリー	コード数	%	小カテゴリー（）はコード数
場所	22	33.8	安心できる場所（11）、福祉避難所（5）、その他（6）
物資	31	47.7	食糧・水（10）、薬品・医療品（3）、衣類・防寒具（4）、おむつ・衛生品（3）、発電機・ガソリン（4）、車（2）、その他（5）
情報	9	13.8	正確な情報（6）、安否情報（連絡網や掲示）（3）
理解とケア	18	27.7	地域の理解者（5）、子どもを預かってくれる人（1）、専門家（9）、その他（3）
コード計	80		

%は自由記述に回答していた協力者数 65 名中の割合 複数回答があるため 100%以上となる

表3 震災後 2～2 年半に不足していたこと（保護者 80名）

大カテゴリー	コード数	%	小カテゴリー（）はコード数
場所	11	22.0	障害者に対応した住居（6）、住居（5）
物資	9	18.0	食糧・水（4）、衣類（2）、日用品（3）
情報	3	6.0	ニーズの聞き取り（2）、子どもに関する情報（1）
理解とケア	36	72.0	保護者への理解とケア（18）、子どもへの理解とケア（15）、その他（3）
生活へのケア	6	12.0	就労支援（3）、経済的支援（2）、生活介護（2）
地域再生	5	10.0	つながり再生（3）、復興（2）
コード計	70		

%は自由記述に回答していた協力者数 50 名中の割合 複数回答があるため 100%以上となる

表4 震災後2～2年半に不足していたこと（支援者87名）

大カテゴリー	コード数	%	小カテゴリー（）はコード数
場所	10	15.2	障害者に対応した住居（3）、住居（7）
物資	5	7.6	障害に対応した教材等（3）、物資（2）
情報	6	9.1	情報（4）、ニーズに関する情報（2）
理解とケア	28	42.4	保護者への理解とケア（15）、子どもへの理解とケア（11）、医療的ケア（2）
生活へのケア	10	15.2	就労支援（2）、経済的支援（4）、その他（4）
支援者自身のケア	9	13.6	ケア（7）、啓発（2）
地域再生	8	12.1	つながり・復興（8）
コード計	76		

%は自由記述に回答していた協力者数66名中の割合 複数回答があるため100%以上となる

表5 防災という観点でのニーズ（保護者80名）

大カテゴリー	コード数	%	小カテゴリー（）はコード数
場所	4	8.7	障害者に対応した避難所の計画（3）
物資	20	43.5	食糧・水（8）、衣類（5）、薬・医療品（3）、その他（4）
情報	26	56.5	避難場所や避難経路（18）、近隣者との日ごろからのコミュニケーション（3）、安否確認方法（2）、投薬情報（2）、その他（1）
理解とケア	4	8.7	障害についての啓発（2）、想定外の状況に慣らさせる体験（1）、助けてをいう練習（1）
防災訓練	5	10.9	身を守る方法（3）、訓練（2）、
その他	4	8.7	災害時緊急システム整備（1）、政策（1）、その他（2）
コード計	63		

%は自由記述に回答していた協力者数46名中の割合 複数回答があるため100%以上となる

表 6 防災という観点でのニーズ（支援者 87 名）

大カテゴリー	コード数	%	小カテゴリー（）はコード数
場所	8	10.0	障害者に対応した避難所の整備（8）
物資	22	27.5	食糧・水（5）、薬・医療品（4）、衛生品・おむつ（3）、電気・ガソリン（5）、車（1）、その他（4）
情報	39	48.8	避難場所や避難経路（13）、地域ネットワーク（6）、安否確認方法（6）、防災マニュアルづくり（6）、情報共有システム（2）、支援団体との連携（2）、その他（4）
理解とケア	6	7.5	障害についての啓発（4）、助けてをいう練習（2）
防災訓練	14	17.5	訓練（14）
その他	2	2.5	政策（1）、その他（1）
コード計	91		

%は自由記述に回答していた協力者数 80 名中の割合 複数回答があるため 100%以上となる

表 7 高 PTG 群と低 PTG 群の震災後ストレス得点

不足体験	高 PTG 群 16 名	低 PTG 群 16 名	t 値	自由度	有意差
場所	3.36 (1.14)	3.11(1.51)	0.498	29	n.s.
物資	2.29(0.80)	2.65(1.17)	0.994	24.50	n.s.
情報	3.40(0.59)	2.73(0.77)	2.783	30	P<.01 高群>低群
理解とケア	3.61(0.69)	2.79(1.07)	2.558	30	P<.05 高群>低群
ストレス体験	3.10(0.39)	2.69(0.90)	1.686	20.58	n.s.

4 つの不足体験の合計をストレス体験得点とした。() 内は SD t 値は絶対値

PTG: Post Traumatic Growth

表 8 高 PTG 群と低 PTG 群の自由記述内容

		記述にみられる共通点
低 PTG 群 12名/16名 高 PTG 群 15名/16名	避難所での ストレス体験	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所にはいられなかった。(L,H) ・子どもがうるさくしていて親の顔がみたいといわれた。(L) ・知り合いが配慮してくれて個室をもらったら、特別扱いをなぜするのかと文句をいわれた。(H) ・寒くて、うるさくていられなかった。(H) ・大勢の人に子どもが怖がってしまった。(L)
	身内や近親者 の喪失体験	<ul style="list-style-type: none"> ・身内、親しい友人、親戚を亡くした。(L,H) ・子どもの知り合いや友人が亡くなったことでショック。(H)
	物資の深刻な 不足体験	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所にいられなかったため、物資が届かなかった。(H) ・自分たちがいる避難所は物資が十分来なかった。(H) ・好き嫌いが激しく、配給されたものが食べられない。(L,H) ・水がたりなかった。(L,H) ・防寒具・おむつ・ウェットティッシュなど衛生用品が足りない。(L,H) ・ガソリンなどの燃料が必要だった。(L,H)
	障害を理解する 人の必要性 を感じる体験	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所に専門家がほしかった。(L) ・障害について理解できている人による支援がほしい。(H) ・そばに理解者・話を聴いてくれる人がほしかった。(L,H) ・甘えさせる支援でなく理解する支援が必要。(L)
	防災訓練の重 要性	<ul style="list-style-type: none"> ・避難警告の出し方を検討してほしい。(H) ・避難経路の確認をして防災意識を日ごろから高める。(L,H) ・防災について子どもと話し合う。(L,H) ・(障害を持った子がいれらる) 避難所を決めておく。(L,H) ・子どもの特性にあわせた防災グッズの見直し。(L,H) ・防災無線や告知板の整備。(L)

Hは高 PTG 群、Lは低 PTG 群

表9 高 PTG 群に独自にみられた自由記述内容

		特徴的な記述内容
高 PTG 群 12名/16名	他者・地域に助けられた体験 5名	<ul style="list-style-type: none"> ・震災直後、子どもが発熱をしたが、病院に連れて行ってもらえて助けられた ・地域の人に助けられた ・近所の人理解して（子どもを）見ていてくれた ・親戚に助けられた ・実家の母が子どもをみていてくれた ・警察が誘導してくれたので病院に行けた
	感謝 2名	<ul style="list-style-type: none"> ・他者への感謝の気持ちが強まった
	他者・地域との絆や積極的な関わり 7名	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている人に声をかけるようになった ・市民の集いに顔を出すようになった ・地域との交流が増えた ・地域とのつながりの大切さに気付いた
	子どもの肯定的変化 4名	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが他者に思いやりを示すようになった ・一人でできることが増えた ・自分で動くようになった。
低 PTG 群 9名/16名	長期化する居場所(場所と理解)のなさ	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を理解している人がいない ・仮設（住宅）も決して居場所にならない ・提供してくれた場所は障害のある子への理解不足（例 飛び出し防止のカギをつける）

表 10 防災アプリ 自分を「まもるリュック」の評価

岩手県宮古市 3名 宮城県石巻市 7名 東京都杉並区 4名
 東京都三鷹市 4名 計 18名

改善すべき点	肯定的に評価できる点
<ul style="list-style-type: none"> *音が出るといいだろう。 *動画がアップできるようにしてほしい *音声入力を可能に *データの保存を PDF でできるように *カーソルがわかりにくい *スマホ版もほしい *一家庭に複数ダウンロードできるように *地図などの入力がむずかしい *GPS 機能があるといいだろう。 *防災のための資料などが見れるようにしたらどうか *カーソルの動きがみえにくい 	<ul style="list-style-type: none"> *全体的にみやすい *色など自分の好きなようにできるのがいい *自分のことがわかったり、人に知らせることができるのがいい *カスタマイズできる機能がうれしい *親子のコミュニケーションを促進できる *子どもについての発見ができるかも *使いやすい *iPad ミニなら持ち運びも苦ではない *視覚的な分類がみやすい